

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年1月6日

BMJ:100万人以上の死亡が予測されている中国：感染者数の発表を停止

【松崎雑感】

中国の人々の状況を憂慮します。洪水の水をためたダムが決壊した状況だからです。ところで、新型コロナウイルスの立場で考えると、効果の高いmRNAワクチンでなく国産ワクチン免疫しか持っていない14億人の国は、変異の必要がほとんどないので、自由気ままに中国全体に感染を広げられる天国だという事になります。そして、現在中国国内で流行爆発の起きている株は、すでに世界全体に行き渡っているわけで、ことさらに中国からの入国者にPCR検査をして、感染者を発見する必要はないのではないかと言う論説です。今週世界最多の感染者を出しているわが国で、いわゆる国境対策に意味があるのかという思いになります。

松崎道幸 道北勤医協ながやま医院 matsuzaki-m@dohoku-kinikyo.or.jp

100万人以上の死亡が予測されている中国：感染者数の発表を停止

Dyer O. Covid-19: China stops counting cases as models predict a million or more deaths. *BMJ*. 2023;380:p2. Published 2023 Jan 3.
doi:10.1136/bmj.p2

中国はコロナ感染数と死亡数の集計と大規模PCR検査を止め、コロナによる死亡のほとんどを除外できるように定義を変更した。

中国国家衛生健康委員会は2020年2月から定例記者会見で、毎日コロナ関連の統計を公表してきたが、12月24日からそれを停止している。本誌は当局に公表停止の理由を問い合わせたが、返事はない。

最後の記者会見で、12月20～23日のコロナ死亡者はゼロだったと報告している。しかし、当時、海外メディアは、葬儀場と病院が満員になっているニュースを報道していた。

12月7日にゼロコロナ対策終了を宣言した中国では、これまでに新型コロナ死亡者が6名と発表している。パンデミック中の死亡者はこれで5241名となったことになる。

健康情報の解析を行っているAirfinity社は、12月はじめから最近までの中国のコロナ死亡者数を11万人と推計し、現在は毎日1万1千人が死亡していると発表している。

パンデミック当初から、中国は感染数を少なく見せるために、無症状者を感染数から除外するというWHOの方針に反する扱いを続けてきた。しかし最近では、国際的批判を浴びたため、無症状者も感染数に入れていた。しかし、先月、定例の公式発表をやめる前に、中国当局は、新型コロナ死亡の定義を大きく変えて、死者数が大幅に減るようにした。

中国政府内の感染症専門家ワン・ギチャン氏は、12月20日の国務院記者会見で、「新型コロナによる死亡を科学的に客観的に定義するために、肺炎あるいは呼吸不全が直接原因となって死亡したPCR陽性者だけを新型コロナ死とすることになるだろう」と述べた。

ワン氏は「オミクロン株感染による死亡は、基礎疾患の増悪でもたらされることが多い。この株の感染により呼吸不全で死亡するケースはまれである。基礎疾患の心臓病、脳卒中が原因となって死亡した場合は新型コロナによる死亡とは分類されない」と語った。

中国当局の新定義による新型コロナ死亡数発表は、国内のソーシャルメディアから広汎な軽蔑と不信の声が寄せられた。

政府のインターネット監視機関は、この様な不満の声を遮断せず、満員の病院と労働者がいない職場の映像も削除していない。

国民のだれもがこの状況を知っているためだろう。

当局の公式発表以外のデータは、すべて、中国がコロナ急増の鳥羽口に立っていることを示している。

薬局から解熱剤、風邪薬がほとんどなくなっている。

政府の命令で、イブプロフェンを1人に6錠以上売らないことになった。ソーシャルメディアでは、病院のスタッフの8割が感染したという医師の発言が流されている。

WHO緊急事態担当のマイク・ライアン氏は、12月22日の記者会見で「当局はICU入院者がそれほど多くないと発表しているが、満床になっているという情報はあちらこちらから聞こえている。中国が意図的に情報を隠しているとは思わないが、対策が後手に回っていると言わざるを得ない」と語っている。

中国からの旅行者の水際検査

この数日、中国からの旅行者に検査を義務付けたオーストラリア、フランス、インド、イスラエル、イタリア、モロッコ、スペイン、イギリス、アメリカなどは中国政府が公表した信頼できない数字を引用している。

「中国が、国際社会とフランクにデータを共有していたなら、おこりえなかった事態だ」とコモンズ保健社会福祉委員会議長で保守党議員スティーブ・ブライン氏はBBC4のインタビューで発言した。

中国政府が出入国時の新型コロナ検査義務化を1月8日に廃止すると発表したことを受けて、各国で水際対策が開始された。中国からの旅行者が激増すると予測されたからである。

このような新しい国境対策に賛成する疫学専門家はほとんどいない。すでに中国国内には、世界中に流行している変異株が入り込んでいるからである。中国国内で、免疫すり抜け能力の高い新たな変異株が発生するというおそれも誇張されている。多くの専門家は、中国国内の新型コロナ感染者は、現在の流行株に対する免疫をほとんど持っていないため、ウイルスが変異する必要がないからである。

2023年は大変な年になると予測

Airfinity社は、中国で1月13日に第一のピークが訪れ、毎日370万人の感染者が発生し、ピークの10日後には毎日2万5千人が死亡すると予測している。この死亡者は、平常時の中国の1日あたりの死亡数と同じである。次のピークは3月3日に訪れ、毎日420万人が感染し、4月末までに170万人が死亡すると予測されている。

このモデルは、死亡者の定義が変更される前の、中国各地の統計データに基づいて作られており、日本や香港のような「ゼロコロナ」から「ウイズコロナ」に移行した国々のデータも参考として作られた。

エジンバラ大学疫学教授マーク・ウルハウス氏は「オミクロン株が以前の株より病原性が低いとしても、入院と死亡が激増した香港のように、激しい感染の波が起きる恐れがある」と語った。

香港では、2022年初めに急激なオミクロン株流行が発生し、9千人が亡くなった。これを中国本土に当てはめると、200万人の死亡者に匹敵する。80才以上のワクチン接種率は中国と香港でほぼ同じ40%台だが、香港ではmRNAワクチンが接種されている。中国本土ではそうでない。

ウルハウス氏は「中国のシノバックワクチンは、mRNAワクチンよりも重症化率が3倍以上高い。シノバック接種率が高くとも、オーストラリアやニュージーランドよりもずっと大きな感染と死亡の波が中国本土に起きることが懸念される」と語った。

香港大学のチームが発表した別のモデルでは、今後数週間中国の状況が非常に困難になると予測されている。ゼロコロナ対策の終了により、1月末までに、毎日100万人あたり684名、累計で96万4千人のコロナ死亡者が発生するという。

先月、中国政府はファイザー社とパクスロビドの輸入契約を締結した。すでに国内でライセンス生産が行われている。この抗ウイルス薬がどれくらい多くの人々に使われるかで、死亡数が変化する可能性があるが。

しかし、最も重要な対策は、mRNAワクチン接種を大きく広げることだろう。中国では、昨年11月にモデルナワクチン購入交渉が決裂した。これは、現地生産が認められなかったためだったが、中国政府はそれ以上のワクチン入手の動きを行わなかったようである。